

## 『科学という考え方』訂正・追加表 酒井 邦嘉

### 再版の訂正・追加

- p.4, 1.9 【によって影響を受けないという実験結果を知らなかったらしい】を【に左右されないという実験結果から決定的な影響を受けたわけではなかった】
- p.16, 1.3 【Q.E.D.】太字
- p.39, 1.10 【金の王冠が本物】を【王冠が純金で作られた】
- p.49, 1.3 【Q.E.D.】太字でなくナミ
- p.68, 1.13 【夜半】にルビ「よわ」
- p.98, 1.13 【なお】以下3文を前段落と合わせ、その後に【応用問題：月の表側に立ったら、地球の周期的な運動はどのように見えるだろうか？（☆）】を次の段落として追加
- p.99 (12) 【Flake : 】コロンの前のスペースをトル
- p.103, 1.6 【形而上】にルビ「けいじじょう」
- p.105, 1.2 文末に追加【これでは「鶏が先か、卵が先か」という問題と似て、結論が得られない。】
- p.134, 最終行 ~ 次頁1.1 【測定したときに】を【いろいろな物質で測って】
- p.135, 1.3 【によって解決しようとした】を【で振り子の周期が物質によらないことを確かめた】
- p.135, 1.5 【物体】を【物質】
- p.136, 1.11 【その先には、さらにケプラーの第3法則が現れる】を【その先では、ケプラーがデータから帰納的に見つけた第3法則が演繹的に導かれる。】
- p.158, 1.12 【<<】小文字センターに
- p.158, 1.13 【→】小文字センターに
- p.163 図5-7の*ct*軸と*x*軸 太さと矢印を図5-6にそろえる
- p.163 図5-7の*x*軸 *x'*と*x*のラベル位置を図5-6にそろえる
- p.165 図5-8のタイトルを【アインシュタインの肖像画】に
- p.177 図5-10の*t*のプライムのカスレ
- p.178, 1.1 【必ず】を【必ず（斜交座標系の傾きに関係なく）】
- p.179, 1.3 【必ず】を【必ず（斜交座標系の傾きに関係なく）】
- p.182, 1.10 【円周の1/4分】を【円周1/4分の円弧】
- p.187, 1.5 文末に追加【用語として混乱を招きやすいが、「動力」や「電力」は力でなくエネルギーである。】
- p.191, 1.9 【エネルギー】の後に追加【（音や熱）】
- p.217, 1.4 【そこには、】を【その論理は、相対性理論（第5講）と相容れないという】
- p.229, 1.6 【できた頃】を【地球から分裂して軌道に届く間】
- p.229, 1.9 【いくはずであり】をトル
- p.230, 1.1-2 【円軌道を直線に伸ばして考えれば、重力が水平面に対し鉛直方向となって理解しやすい。つまり】を【また、月が現在の軌道に届くまでは、常に重力の方が遠心力より大きいため】
- p.264, 1.1 【説明になっている】を【説明であり、遠隔作用を考える必要がなくなった】
- p.264, 1.6 【実際に】を【2次元空間の例として、】
- p.268, 1.9 【現れた】を【自然に導出された】
- p.271, 1.1 【結果である】を【結果であり、重力波が光速で伝わることも実証された】
- p.271, 1.14-15 【遙か彼方のブラックホールで生じた重力波が、13億光年もの歳月をかけて】を【遙か彼方（13億光年）のブラックホールで生じた重力波が】
- p.273, 1.15 【「】を【『】
- p.274, 1.1 【】】を【』】
- p.302, 1.6; p.303, 1.6; p.303, 1.7 【ア・ポステオリ】を【ア・ポステリオリ】
- p.316 【Q.E.D.】49でなく16を太字に
- p.319 【相対性理論】217を追加 [行内に収める]

- p.322 **【運動量】** 118を追加（「運動の量」を含める）
- p.322 **【ア・ポステオリ】** を **【ア・ポステリオリ】**
- p.322 **【遠隔作用】** 264を追加